

令和 7 年 4 月 21 日

令和 6 年度経営発達支援計画に係る外部評価

中小企業診断士
北川裕章

令和 6 年度経営発達支援計画評価は同計画の最終年度となり、概ね目標どおり実行されたと評価できる。ただし、主要な取組の中で環境変化や諸事情で事業自体が中止になったものがあり、それに係る取り組みは実施できなかった。できればそれに代わる取り組みが望ましく、実際に実施されたものもある。その場合、計画書に記載された定量的な目標の評価は未実施となるが、定性面での実績として報告書に記載することを検討されたい。今後は、継続が担保されていない具体的な商品やイベント等はなるべく表記を避け、計画にある程度の幅をもたせることも必要と思われる。計画は概ね趣旨に沿って実施されたが、事業者自らが気づきを得て自立や自走化を促すという点では不足していたとの内部評価が経営指導員から出された。次期計画ではそのような反省点を生かすことが期待される。以下目標別の特記事項を記載する。

1. 地域の経済動向調査では、公表回数が目標であり概ね達成されているが、管内事業者にとって有益な情報となるような分析等が加わればさらによい。
 2. 経営状況の分析は、仮に SWOT 分析だけで事業計画策定に至らなくても実績としてカウントすることを検討されたい。
 3. 計画の中心になる事業計画策定支援及び 4. 事業計画策定後支援は、ほぼ目標を達成している。しかし、4. の売上増加事業者数や営業利益率増加事業者数は共に 3 であり、5 の目標に未達だった。対象事業者数と目標との割合からみると相対的に低いと思われる。
 5. 需要動向調査や 6. 新たな需要の開拓に関する③④では実績がなかったが、事業の中止等によるものであり理由は明確だった。
- II. 地域経済の活性化では中止になった事業以外は着実に実施され、III 経営発達支援事業の支援力向上も着実に実施されたと評価できる。

以上

経営発達支援計画（令和 6 年度）実績報告 講評

令和 7 年 4 月 18 日

島田掛川信用金庫

福田 郁之

令和 2 年度に作成した経営発達支援計画も令和 6 年度が最終年度として集大成となりました。その間、新型コロナウィルス感染症や令和 4 年 9 月の台風 15 号により大井川鉄道が、笛間渡駅より奥が止まったまま等、計画当初から経営環境が大きく変化している中、各目標ばらつきがありましたがやむを得ない事情を除き目標数値を上回っており、経営指導員の皆さまの地域に密着した巡回活動の成果と評価できます。

経営状況の分析に関する事業計画策定支援は、独自のフォーマットを用いて意欲的な事業者に寄り添い分析・策定レフォローアップまで目標を上回り、売上増加や利益率向上等成果が確認できた事業所があり成果が上がりました。

新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事業では、不実施の事業もあり目標を下回りました。

地域経済の活性化に資する取組では、経営環境の変化等により調査・企画の段階で止まった事業もあり目標を下回った取組もありましたが理由は明確がありました。

重点目標の①観光による地域の活性化②人口減少の歯止め③事業承継支援は、今後も当地区における大きな課題であり、マーケティング及びブランディングに注力し持続可能な地域経済の発展に今後も寄与して頂きたい。

川根本町商工会経営発達支援計画事業評価講評

5年間の支援計画最終年度ということで、経済情勢、社会環境が大きく変化している状況下での支援事業の執行であった。きめ細かい巡回指導及び関係機関との緊密な連携体制による支援事業展開は高く評価できる。

前年度講評において指摘した地域の経済動向調査については目標を達成できなかったが、小規模企業景気動向調査は計画どおり実施されており、地域経済環境を把握したうえで支援事業が実施されていたと評価する。

町としては、商工業者の経営意欲の増進、事業承継が商工業振興の鍵であると考えている。経営指導員は経営意欲の増進に特に配慮しているということであり、次期経営発達支援計画の適切な実行について期待するところである。

令和7年4月17日

川根本町産業振興課長 鈴木浩之